

報道関係者各位

2022年11月24日

第91回企画展

二度見
造形

古代の焼物から

2023年 1月18日(水)～3月6日(月)

子供の頃、粘土でいろんな物を作った方も多いのではないのでしょうか。ヒーローであったり、家や車、家族や可愛がっているペットであったりするわけですが、それらには様々な思いが込められていたはず。自由に造形でき、焼くと固くなるという粘土の特性は、やがて焼物を生み出しました。瞬間に、焼物は用途を広げ、いつしか人が作る主な製品となりました。こうした焼物には、優れて機能的なものもあれば、神秘的な世界観を表現して複雑怪奇な形になったものもあります。

当館所蔵の古代の焼物から、つい「二度見」したくなるような造形を選び、展示します。

現在の私たちから時間的にも空間的にもかけ離れて行くにつれて、違和感を覚え、異質さを感じるようになります。しかし、近い地域であっても改めて見てみると、おもしろいと感じるものも少なからずあります。造形美を楽しんでいただくとともに、その背景にある世界観や情念に思いを馳せてもらえれば幸いです。

現代は高度な情報社会で、知りたい情報はすぐに手に入る時代です。しかし実態は次から次へと「流し見」しているだけではないのでしょうか。ちょっと立ち止まって古代の造形を「二度見」してみませんか。

■ 展示構成

【特異な象形】

古代においては、たとえば粘土という限られた媒体を用い、限られた目的で限られた表現方法で作られている。一つ一つに注入されるエネルギーは相当なものと言える。特に動物などを象る場合、その背景にある理念・情念を注ぎ込んでいる。それは人間の根幹に関わるところからの表現であろう。時代や地域を超えて現代の私たちにも直に訴えてくる。太古の石彫物が現代作家による美術作品かと思間違ってしまうこともある。古くて新しい美術と言われたりする所以であろう。

【特殊な構造】

貯蔵・煮炊き・盛り付けなどに使う日常容器は、現在とさほど変わらない。それらとかけ離れた形態・構造を持つものは、やはり特殊であり、現在の私たちからすれば一風変わったものである。ある年代のある地域で行われていた特殊な宗教儀礼に用いられた専用の焼物となれば、ほとんど理解できない。一方で時代も地域もかけ離れていて両者に影響関係は認められないのにも関わらず、同じような特殊な構造を持つものが出現していたりするのも興味深いところである。人間に共通する深層心理から発生するものであろうか。

【特有のおもしろさ】

特徴的な装飾や形態をしていて、特有のおもしろみのあるものを集めてみた。特に東アジアのものは、私たち日本人にとって馴染み深いもので、その意味もある程度は理解され、すんなりと受け入れられる。しかし改めて見てみると、やはり特異さを感じるものである。たとえば縄文土器がそうである。背景にある重厚な世界観や情念がそう感じさせるのであろう。その一つで世界観を表していて感心したり、どうしてこういう形になっているのだろうかと思ってみたりする。じっくり見ていると、それぞれに味わいが出てくる。

■出品数 50点

主な展示品(すべて天理大学附属天理参考館所蔵)

- ・瘤牛形注口土器(前1000年頃)
- ・人面飾吸口付連壺(前1000年頃)
- ・山羊前軀飾リュトン(前1千年紀後半)
- ・青釉蛇装飾壺(プトレマイオス王朝)
- ・鐙型注口壺(前1200～前500年頃)
- ・笛吹ボトル(前200～後600年頃)
- ・青磁神亭壺(西晋)
- ・白胎加彩鎮墓獸像(唐)
- ・遮光器土偶(縄文晩期)

■関連イベント ※入館券が必要です。

・記念講演会

「古代の土器から見たオリエントと中南米の世界観」

講師:須藤 寛史氏(岡山市立オリエント美術館 学芸員)

日時:2月4日(土) 午後1時30分～3時

会場:天理参考館2階ホール

定員:30名 [事前申込制]

・トーク・サンコーカン①

「古代の造形美術から見る人間精神—本館所蔵の焼物から—」

講師:巽 善信(天理参考館 副館長)

日時:1月20日(金) 午後1時30分～2時30分

会場:天理参考館2階ホール

定員:30名 [事前申込制]

・トーク・サンコーカン②

「古代アンデスの土器づくり」

講師:荒田 恵(天理参考館 学芸員)

日時:2月23日(木・祝) 午後1時30分～2時30分

会場:天理参考館2階ホール

定員:30名 [事前申込制]

※関連イベントの申込み方法は第91回企画展サイトをご確認ください。

https://www.sankokan.jp/news_and_information/ex_sp/sp091.html

・その他

笛吹きボトルの3次元モデルデータを展示室内タブレットにて再生

(令和2年度・令和3年度国立民族学博物館公募型メディア展示「事業の支援による」)

■第91回企画展「二度見する造形—古代の焼物から—」広報用画像リスト

これらの広報画像は当館ウェブサイトのプレスリリースページ内(第91回企画展「二度見する造形—古代の焼物から—」よりダウンロード可能です。

使用に関しては以下の注意事項を遵守してください。

・クレジットには以下の通り記載してください。

【1】鹿形注口土器 イラン 前1000年頃 (天理大学附属天理参考館 所蔵)

【2】地母神像 シリア 前2000年頃 (天理大学附属天理参考館 所蔵)

【3】白胎加彩鎮墓獸像 中国 唐 (天理大学附属天理参考館 所蔵)

【4】笛吹ボトル ペルー 前200～後600年頃 (天理大学附属天理参考館 所蔵)

【5】遮光器土偶 青森県三戸町 縄文時代晩期 (天理大学附属天理参考館 所蔵)

- ・写真(画像)のトリミングや文字乗せはご遠慮ください。
- ・写真(画像)の使用目的は、本展の紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。



【1】鹿形注口土器



【2】地母神像



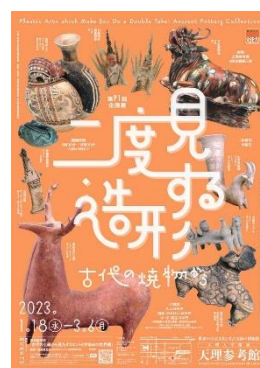
【3】白胎加彩鎮墓獸像



【4】笛吹ボトル



【5】遮光器土偶



【6】ポスター

■開催概要

展覧会名 第91回企画展「二度見する造形—古代の焼物から—」

会場 天理大学附属天理参考館 3階企画展示室

会期 2023年1月18日(水)～3月6日(月)

開館時間 午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)

休館日 火曜日

入館料 大人500円、団体(20名以上)400円、小中高生300円(学校団体の見学は無料、要事前申込)

※障がい者およびその介護者1名は無料。受付カウンターに障がい者手帳またはミライロID(スマートフォン向け障がい者手帳アプリ)をご提示下さい。

主催 天理大学附属天理参考館

後援 天理市・天理市教育委員会・歴史街道推進協議会



企画展サイト

新型コロナウイルスの感染予防・拡大防止のため、会期や関連イベントを変更・中止する場合があります。

■お問い合わせ 天理大学附属天理参考館 〒632-8540 奈良県天理市守目堂町 250 番地

TEL.0743-63-8414 FAX.0743-63-7721 E-mail:san-info@sta.tenri-u.ac.jp

展示担当: 巽 善信(副館長) / 広報担当: 中村・山口